

## 論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	木納 潤一
題 名	<p>Evaluation of the Effectiveness of Multi-Task Cognitive Activation Therapy Combining Motor and Cognitive Tasks in Patients with Schizophrenia</p> <p>（和 訳）</p> <p>統合失調症患者に対する運動課題と認知課題の多重課題プログラム（Multi-Task Cognitive Activation Therapy）の効果検証</p> <p>目的</p> <p>本研究では、運動課題と認知課題を組み合わせた多重課題プログラム（Multi-Task Cognitive Activation Therapy：MCAT）が統合失調症患者に及ぼす効果を検証した。</p> <p>方法</p> <p>精神科デイケアを利用している統合失調症患者を対象とした。本研究には 5 つの施設が参加した。研究デザインは、介入前期間 3 ヶ月と介入期間 3 ヶ月を設定したミラーイメージ試験を用いた。MCAT によるトレーニングは、12 週間、週 2 回、合計 24 回実施した。MCAT は、身体運動と認知課題を組み合わせた多重課題に取り組み、ペアもしくは集団で実施する特徴をもっている。複雑な多重課題を完遂するのではなく、あえて失敗を楽しみ、身体の大きな動き、感情や発声の表出、相手を理解する力を引き出し、活性化することを目的として筆者らが開発したプログラムである。</p> <p>主要アウトカムには、BACS-J（Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia Japanese version）と FEIT（Facial Emotional identified Test）を使用し、副次アウトカムには、PANSS（Positive and Negative Syndrome Scale）、LASMI（Life Assessment Scale for the Mentally Ill）、RAS（Recovery Assessment Scale）、BPNSFS（Basic Psychological Need Satisfaction and Frustration Scale）、WCST（Wisconsin Card Sorting Test）を用いた。各アウトカムは、介入 3 ヶ月前、介入直前、介入直後の 3 時点で検査を実施した。そして、介入前期間と介入期間のそれぞれ前後の比較について、Shapiro-Wilk 検定にて正規性の検定を実施したのち、対応のある t 検定、もしくは Wilcoxon 符号付順位和検定を実施した。</p> <p>結果</p> <p>登録者数は 44 名であり、そのうち介入を完遂した者は 36 名であった。介入期間の前後における、BACS-J の Z-score のうち、言語性記憶（介入前<math>-1.98 \pm 1.60</math>、介入後<math>-1.50 \pm 1.41</math>、<math>p &lt; .01</math>、<math>r = 0.47</math>）、運動機能（介入前<math>-1.47 \pm 1.71</math>、介入後<math>-0.93 \pm 1.50</math>、<math>p &lt; .01</math>、<math>r = 0.47</math>）、Composite Score（介入前<math>-2.31 \pm 1.51</math>、介入後<math>-1.92 \pm 1.38</math>、<math>p &lt; .01</math>、<math>r = .52</math>）において有意な改善を認めた。また、PANSS の総合精神病理尺度（介入前<math>30.86 \pm 7.07</math>、介入後<math>28.17 \pm 7.00</math>、<math>p = .01</math>、<math>r = .30</math>）、LASMI の対人関係（介入前<math>0.90 \pm 0.70</math> 点、介入後<math>0.63 \pm 0.49</math> 点、<math>p &lt; .01</math>、<math>r = .18</math>）において、有意な改善を認めた。その他の評価項目では、有意な改善を認めなかった。全参加者について、最も初期に検査した BACS-J の Composite Score をベースラインとして、中等度群、重度群について解析したところ、中等度群（<math>n = 8</math>）では、BACS-J の Composite Score に有意な改善を認めた。重度群（<math>n = 22</math>）では、BACS-J の言語性記憶、Composite Score、LASMI の対人関係において有意な改善を認めた。</p> <p>結論</p> <p>MCAT 介入による効果として、認知機能障害が重度、もしくは中等度の統合失調症患者に対して、認知機能や対人関係を改善する可能性が示唆された。</p>